



あとがき



「道標（みちしるべ）とならんや」。読者の広場で、水山氏のベトナムにおける研究生生活を楽しみながら拝読し、ふと思った。研究生生活の場を海外に求めて奮闘する中で得られたベトナム人の気質について、氏の洞察をもって興味深く語られおり、憎めず愛情を持っておられることは、記事の写真から聞こえてくるあふれる笑いで明らかである。

ベトナムの研究者のご縁があってダナンに研究の拠点を移されたのはPart1(No.121)で語られているとおりである。それから2年、ベトナムの学生達の教育のために、彼等母国の科学研究のために「道標とならんや」と、そのような気概が氏の記事からうかがえる。

「将来、自分も海外の大学・研究所で研究を行ってみたい」、と思う日本国内の学生達に良き「道標」の一つとなろう。

学生諸君よ、己が「道標」にならんと、志高く続け！

中村 詔司 2020年2月

日本原子力学会核データ部会

核データニュース編集小委員会

岩本 修（原子力機構）

宇根崎 博信（委員長、京大）

大塚 直彦（IAEA）

金 政浩（九大）

小浦 寛之（原子力機構）

中村 詔司（原子力機構）

山野 直樹（AsiaSEED）

横山 賢治（原子力機構）